



霊峰石鎚山参拝 総勢30名 (H28・7・3〜4)

観音吉日

平成29年 第51号

発行 所八ヶ所 霊場
八ヶ所 霊場 宗言真
四国八ヶ所 霊場 宗言真
新四国八ヶ所 霊場 宗言真
第三十三番札所 慈眼院 正観寺
箱島山 小出田 小吉

気持ち次第

吉田 真覚

二〇一五年三月二十一日、例年より二週間早く高野山の修行道場（高野山専修学院）へ私は足を踏み入れることになりました。今回はわたしが体験した修行における基本的な三つのことをお話しいたします。

まずは掃除です。これを修行道場では下座行（げざぎょう）と言います。これからお世話になる場所を念入りに掃除させて頂くわけですが、広い畳の部屋を雑巾がけするだけで一苦勞。本来「下座行」とは、自分の身を低くし、人から顧みられないところでも、手足を汚すことを厭わずに行うという事です。体を屈めて行う掃除などは、まさにこの「下座行」そのものであり、この行をひたすら続ける中で大切なことは、身を低くすることで人間としての謙虚さを身につけ、手足を汚すことを通じて目に見えない価値を実感することです。これこそが、現代人が失いつつある生活感覚を身につける基本だと言えるでしょう。わたしたちは朝下座と夕下座とがあり、これを毎日欠か

さずします。わたしも人間ですから朝眠たくてウトウトしてしまうときもあります。夕方は疲れてタタタタになっているときもあります。そんな時、「ダラダラするな、しっかりやれ！」と先生のお叱りが飛びます。これも修行だと、気合で乗り切りました。その時は大変でしたが、後になって綺麗な場所でのお勤めほど気持ちの良いものはないと実感させられたのです。

次に読経です。ここでは勤行（ごんぎょう）といいます。精を出し熱心に努力し経をお唱えすることを指します。わたしたちが僧侶になるためには必要不可欠なことです。読み方や発音などは指導してくださる先生方によって異なるのでこれが正解、というのはございません。またお経を読むことは、何の意味があるのですかと聞かれます。私の徳を称え、功徳を得ること。また個人の冥福を祈るためのものと思われませんが、それだけではありません。自分自身の気持ちを切り替える方法としても大変有効な手段でもあります。本来は經典の意味を理解して実践するために読んでいたのですが、今では読経すること自体が一つの修行であるとされます。仏さまの前で雑念を払い、

まず福智の因を積んで、しかるのち、無上の果を感致せよ。 【理趣経開題】

「教えを学び善行を重ねることで仏との因を積み、それによって最高の結果を得なさい」という意味。「無上の果」とは悟りの境地です。よい因はよい果を生みます。目標を持ったならそれに向けて最善を尽くし、正しい行いを積みこみます。そうすれば天も味方して、きっとよい結果が待っています。

精神を統一し、何百回何千回と日々読経を繰り返すことで仏の世界に入っていくという境地に入っていくといっても過言ではありません。

最後に食事です。仏教では「しょくじ」ではなく、「じきじ」と言います。精進料理を頂くわけですが、精進料理とは野菜、海藻など植物性食品を材料とした料理で、精進とは仏教用語で美食を戒めて粗食をし、精神修養をするということを指します。わたしたちは出来上がった料理を配膳して食堂（じきどう）で頂きます。そして、食事作法といって食事を頂く際に行う作法があります。自分たちに食事を頂ける資格があるかを再確認し、食事を頂けるすべてのご縁への感謝を表します。

このように今回お話ししたものは修行をするにおいて基本的なことです。実は皆さんが身の周りで体験できるものでもありません。要は意識するかしないかで大きく変わってくるのです。また日頃生活をする中で感謝しなければならぬこと。そういうことにも気づくことで今までは少し違った日々を送れるのではないのでしょうか。

平成二十九年度 年間行事予定表

一		二		三		四		五		六	
一〇三	修正会（初護摩祈禱）	三	星祭り（星供養節分会 北斗護摩祈禱）	十二	観音大祭（大柴燈護摩火渡り・福餅まき） <small>（御本尊供・土砂加持手づくり市）</small>	中旬	春季彼岸お参り	十九	春季彼岸会・永代合同供養祭	九〇十二	小豆島八十八ヶ所霊場巡拝
十八	初観音ご縁日							十八	観音ご縁日	十八	観音ご縁日
七	十八 観音ご縁日	八	盆お参り	九	弘法大師ご縁日・秋季彼岸会 <small>（秋季彼岸会 永代合同供養祭）</small>	十	七五三祝禱	十一	七五三祝禱	十二	七五三祝禱
二〇三	霊峰石鎚山参拝	十五	孟蘭盆会・永代合同供養祭 <small>（きゅうり加持祈禱・護摩祈禱） （施餓鬼供養・演奏会）</small>	二十	地蔵祭り	二十一	秋分	十八	納観音ご縁日	十八	納観音ご縁日
十八	観音ご縁日	上旬	盆お参り	中旬	秋季彼岸お参り	三十一	年越祭（除夜の鐘）	三十一	年越祭（除夜の鐘）	三十一	年越祭（除夜の鐘）

《月例行事予定表》

- 一、御本尊「聖観世音菩薩」ご縁日
【諸供養・諸祈願（護摩祈禱）・昼食お接待有】
◎毎月 十八日 午前十時半〜
十八日が日曜・祭日の場合
お大師さん「弘法大師」ご縁日
二十一日 午前十時半〜
※二月・三月・八月 除く
- 二、般若心経 写経教室 月一回程度
第二木曜 午前十時半〜十二時
- 三、高野山金剛流御詠歌教室 月二回程度
平日昼間 午後十三時〜十五時
- 一、四月九日（日）〜十一日（火） 二泊三日
『小豆島巡拝』 費用 四〇、〇〇〇円
- 二、七月二日（日）〜三日（月） 一泊二日
『石鎚山参拝』 費用 三四、〇〇〇円

《随時受付中（宗派不問）》

詳細はお寺までお問い合わせください。
境内地蔵地・本堂納骨堂・永代供養塔
水子納骨堂・水子地蔵尊
正観寺会館（葬儀会場）／（仏前結婚式会場）
先祖供養・水子供養・永代供養
護摩祈禱・厄除け・諸祈願・仏事全般等々
随時本四国八十八ヶ所霊場お砂踏み可

〒七三五―〇〇二九
広島県安芸郡府中町茂茂二丁目二一八―四
TEL 〇八二―二八二―五六六二
FAX 〇八二―二八五―五五三〇
ホームページ 広島 正観寺 検索
●新大州橋・ソレイユより近く
（駐車場有り）正 観 寺



観音大祭（火渡り）（H28・3・13）

地藏祭り（H28・8・21）



小豆島八十八カ所霊場巡拝 総勢14名 (H28. 4. 10~12)



星祭り（北斗護摩祈禱）（H29・2・3）

身近な人の死を受け容れるためのヒント

今朝目が覚めて、「今日」を生きている私たちですが、この世に「いのち」をいただいた全ての人に、いつかは分かりませんが、「死」は間違いない訪れます。

亡くなった人が十代の若者であっても、百歳の高齢の人であったとしても、その人が生きた年月の長さでなく、生きたこと自体によって、その人の人生を「生ききった」と受けとめてください。亡き人の人生を振り返って「幸せだったこと」「楽しかったこと」を探してみましよう。そうすると、決して不幸な人生ではなく、幸福を感じる生涯であったことが分かり、人生を「生ききった」と認められるに違いありません。

人間は二度死ぬのです。一度目の死は、心臓が停止して呼吸が止まった時に訪れるのです。これは肉体が死を迎えた時です。二度目の死は、肉体の死を迎えた人、つまり亡くなった人のことを、誰もが忘れてしまった時訪れるのです。

肉体の死を迎えた人に、二度目の死が訪れないようにするための方法は一つ、その人を忘れないことです。肉体は死を迎えても、その人を忘れないかぎり、亡き人はご縁のあった人の心の中に生きています。亡き人と、同じ家庭で、同じ職場で、同じ時間を共に生きてきたあなたは、その人にとっても大切な人、なくてはならない存在にあっては必ずです。そんなあなたが、この世で幸せになることこそが、亡き人も幸せにすることになるのです。かけがえのない人、大切な人のために、この世で幸せになってください。

お墓で、お仏壇で、ご本尊の前で、あなたが亡き人に向かって「私は今、幸せな日々を送っていますから安心してください……」と伝えられた時、真のご供養が完成するのです。

「永代供養塔」について

新たに境内地（鐘樓堂横）に、永代供養塔の確保をいたしました。



◎永代供養とは、お寺が永代的にご供養と管理を行います。核家族化が進んだりと将来のお墓の守り方を続けられない方、将来子どもに心配や負担を掛けたくない方、無縁墓にならない安心できるお墓をお求めの方、祀りてのないご先祖さま等、身寄りのない方など、様々な事情に対応いたします。当山にて永代にご供養申し上げます。

- ・ 宗派不問
- ・ 年間管理料不要
- ・ 生前予約可
- ・ ご希望の方は合祀も有り
- ・ 半永久的に個別に安置
- ・ 納骨法要を執り行い、ご供養致します。
- ・ 過去帳／銘板に記載

「観音大祭」のご案内

正観寺 手づくり市 三月十二日（日）（十時～十五時）

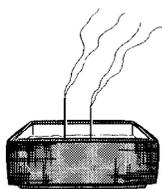
◎当日、全て手づくり（ハンドメイド品）が多々並びます!! 是非、お越しください。
（火渡りをし、福餅を拾い、ご利益を授かってください。）
（お昼はお接待いたします。）

子育ての秘訣七カ条

- 第一は、家族・兄弟が仲よくし、みんなで楽しく生きていくプログラムを持つことです。
- 第二は、子どもの生まれながらの天性をほめ、学校の成績のみで評価しないことです。
- 第三は、大人が世のため人のために尽くして善悪をはっきり教えることです。
- 第四は、ふだんはリラックスしていても、社会生活のマナーをつけてやることです。
- 第五は、大人は家庭を築く責任を持ち、子どもから尊敬され、頼りにされることです。
- 第六は、大人が子どもを思い通りにしようと考えることなく、子どもの成長を願ひ祈ることです。
- 第七は、神仏やご先祖を尊び、お年寄りを大切にすることです。

心の四季

人に接するとき 暖かい春の心
 仕事をするとき 燃える夏の心
 考えるときは 澄んだ秋の心
 自分に向かうときは 厳しい冬の心



般若心経の写経をはじめてみませんか

般若心経は、お釈迦様の教えを二六二文字に集約した経典で、みなさんに一番親しまれるお経です。その般若心経を書き写し、説かれていた内容についてお話しします。写経は上手下手ではなく、心静かに、一字一字丁寧に書き写すことです。
月一度 第二木曜日 午前十時半～十二時（NHK文化センター広島教室）で行っていますので、どうぞご参加ください。